

Ⅹ 神戸経済の活性化にチャレンジしましょう

若者、リタイア者を含む幅広い年齢層や外国人県民の起業をはじめ、IT産業やものづくり産業の隆盛、国内・海外からの観光客の増加、商店街の賑わいの創出、神戸ブランドづくりなどを通じて、神戸経済を元気にしていきましょう。

また、企業と子ども、企業と学生をつなぐ仕組みをつくり、情報発信を充実して、子どもや学生が神戸の産業活動に関心をもつ機会を増やしましょう。

1 連携による起業の機会を拡大しましょう

技術を持ち、起業家精神を有する学生（留学生を含む）がベンチャービジネスなどで成功できるよう、彼らと投資家を結びつける仕組みやコーディネーター組織をつくりましょう。関心を持つ個人投資家(エンジェル)と連携して、起業に向けて動き出す道を探りましょう。また、ビジネスの知識、経験が豊富なリタイア者の起業を助ける仕組みも考えましょう。

○ベンチャービジネスの機会を拡大しましょう

- ・学生（留学生を含む）は、起業に対し積極的になりましょう。
- ・学生（留学生を含む）は、技術力を養成し、異なる発想、異なる視点からアイデアを出しましょう。
- ・投資家は、エンジェルになりましょう。
- ・投資家と起業家を結びつける役割を担うコーディネーター組織をつくりましょう。
- ・コーディネーター組織（大学も含む）は、学生向けに、経営実務知識の習得、事業計画の策定、起業に必要なノウハウ・情報を提供するなど、ベンチャービジネスの育成から投資までを総合的に学べる教育機会を増やしましょう。
- ・コーディネーター組織は、技術力を見極める能力(弁理士・技術士)、会計、税制上の知識(会計士・税理士)、マーケティングなどの専門的な能力をもつ人材とのネットワークを活用し、投資家と一体となって事業化を推進しましょう。
- ・税理士・弁理士、技術士などは、専門家として技術の評価やベンチャー企業の診断を行いましょう。

◇ひょうご産業活性化センター、銀行などがベンチャー育成のための投資ファンドを開設

○リタイア者の起業の機会を拡大しましょう

- ・リタイア者は、企業などで培った、ものづくりや商品開発の技術、経理・会計の知識などを活かして、起業に対して積極的になりましょう。
- ・リタイア者は、メンター（※）となり、自らの知識、技術、技能、経験と、若者の発想、技術とを組み合わせて、両者の強みを活かした分野で起業しましょう。

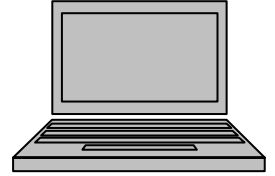
（※）ビジネスの上でより効果的なアドバイスをしてくれる相談者をいう。

2 新しい時代にマッチした製造業へ転換させましょう

IT化、グローバル化、環境優先社会を迎えて、神戸の製造業を新しい時代にマッチしたものに転換させましょう。

○IT時代に適応した製造業を育てましょう

- ・製造業者は、IT化、情報化によりコスト削減、生産効率やマーケティングの向上を図るほか、情報・通信を活用した新しい製品や事業形態を創造しましょう。
- ・NPOは、デジタルデバイドを解消するため、人材教育や安価での情報手段の提供などを行いましょう。
- ・県民は、ITを学び、職業選びの幅を広げましょう。



- ◇「ツール・ド・コミュニケーション」が不要になったパソコンを修理・再生し、パソコンなどを活用して、市民活動、地域活動、マイノリティの自立支援を実施
- ◇「ひょうごんテック」が情報通信技術の活用講座を実施
- ◇「プロップステーション」などがIT講習を実施

○環境産業を育てましょう

- ・廃棄物の発生抑制、有効利用、適正処理を行う環境優先社会に適合した産業を誘致し、育成しましょう。
- ・農産物残さ、家畜ふん尿、木くず、食品廃棄物など、生産・加工・流通・消費の各段階から発生する廃棄物や未利用資源の再生利用によるゼロエミッション(廃棄物ゼロ)と、肥料化や飼料化、炭化、エネルギー化を行う産業を育てましょう。
- ・リサイクルセンターやリユースのためのセンターをつくりましょう。

○ものづくり産業を育てましょう

- ・神戸の自然や資源を活かした、農水産業に加え、機械加工、車両、海洋・造船、食品加工などの自律型産業を継続して育てましょう。
- ・ナノテクノロジー(超微細技術)、人工知能(ロボット)、健康(医療、バイオテクノロジー)、環境・エネルギーの成長産業の分野を重点に、企業、大学、研究機関などが連携しながら新たな事業を生み出しましょう。
- ・マーケティングやデザイン管理などにより、地場産業のブランド力を向上しましょう。
- ・県民は、モニターとなって製品などに対する評価、提案をしていきましょう。
- ・青少年に県内の企業などで、ものづくり体験学習を行う機会を提供し、ものづくり人材を育成しましょう。

3 地域の資源を活かす観光交流を広げましょう

国際性豊かで、地域資源に富んだ神戸が、国内外の人の交流が盛んになるように、産業、商品、観光資源としての神戸ブランドをもっと活用し、ツーリズム情報を効果的に発信し、神戸を訪れる方に対する県民のおもてなしの心を育て、観光交流を広げましょ

う。

特に、神戸空港を活用して、多彩な魅力あるツーリズム情報を発信し、観光交流を盛り上げていきましょう。

○ツーリズム情報を発信しましょう

- ・「おしゃれな街」「エスニックの魅力」「港」「六甲山」「神戸ルミナリエ」などの多彩な神戸の資源を生かすとともに、産業ツーリズム、グリーンツーリズム、エコツーリズムを推進して、国内外の多くの観光客が訪れたいような交流の舞台づくりを推進しましょう。
- ・酒造りや地場産業、工業技術や先端医療技術分野における産業ツーリズムのツアーを充実していきましょう。
- ・神戸の魅力づくり、神戸の魅力情報の発信に取り組みましょう。
- ・国内外の観光客に神戸の魅力を多言語で発信し、観光客のニーズに応じたコースを提案しましょう。
- ・ツーリズム情報の一元化を図り、インフォメーションセンターの設置促進、ピクトグラム（絵文字による情報伝達手段）を使っての案内所や情報コーナーの表示の統一・明確化を進め、インフォメーション機能を充実しましょう。



○おもてなしの心を育てましょう

- ・県民一人ひとりが、それぞれの立場で出会う神戸を訪れる方に、神戸の魅力を伝えましょう。
- ・観光ボランティアガイドを育成しましょう。県民は、観光ボランティアを引き受けましょう。
- ・観光ボランティアに神戸の歴史、文化、名所などを学ぶ研修を行いましょう。
- ・神戸の歴史・文化の知識レベルを認定するものとして、神戸・観光文化検定を設けましょう。

4 商店街の付加価値を高めましょう

神戸都心地域における旧来からの商店街は、消費の低迷や郊外型の大型店進出などにより厳しい状況におかれています。しかし神戸には多くの文化的な資源があり、これらを付加価値として活用して、まちのイメージを確立し、買い物だけではない、NPOなどによるにぎわいの創出とも連携して、商店街を形成することが求められます。

県民は、この付加価値をつける活動に協力しましょう。

○文化的付加価値をつけることにより活性化を図りましょう

- ・商店街は、各地域にある文化的な資源を活用し（博物館や神社などでのイベントの開催など）、文化的資源を自ら作り出しましょう。また、こうした情



神戸地域夢会議「学生の見た神戸のまち（商店街）」

報を募集し、発信しましょう。

- ・商店街は、コミュニティづくり、助け合い活動、経済活性化のための舞台を提供しましょう。
- ・商店街は、トライやるウィークの受け入れなど学校との連携を強化しましょう。
- ・県民は、ボランティアとして活動しましょう。(博物館ボランティアなど)
- ・県民は、商店街の活性化のために積極的に意見を述べましょう。
- ・県民は、できるだけ地元で買い物をしましょう。(地域応援団のようなもの)
- ・NPOは、新たなイベント企画者、主催者になりましょう。文化創造の担い手として情報発信を担っていきましょう。



学生による商店街パレード

- ◇東灘地域助け合いネットワークが空き店舗で生活支援サービスなどを提供
- ◇若者が稲荷市場に住み込み、まちの活性化を図る「住みコミュニケーションプロジェクト」を実施
- ◇「神戸ながたティ・エム・オー」が商業の活性(1店逸品)、環境の整備、地域の連携、産業の振興(長田名物のプロモーション)、福祉の充実(ショップモビリティ)などを実施

○ネットワークを充実することにより活性化を図りましょう

- ・商店街は、やる気のある店主、若手などが横断的な商店街の連携ネットワークを組織しましょう。
- ・NPOは、商店街ネットワーク組織を専門的知識(HPの作成やマーケティング、会計)で側面から支援しましょう。

○商店街のブランド力を向上させましょう

- ・商店街は、素材、機能、品質などによる商品のブランド力を高めましょう
- ・商店街は、マーケティングをし、お祭りなどのイベントや話題性のあることに取り組むほか、これらを継続して行い、地域への浸透や定着を図ることにより、地域のブランド力を高めましょう。
- ・県民は、モニターとなって商品などに対する評価、提案をしていきましょう。

5 コミュニティビジネスを地域で支える仕組みを考えましょう

コミュニティで小口の資金を調達し、コミュニティビジネスの運営資金として融資しましょう。こうした資金の公募、融資をする組織をつくりましょう。還元はサービスや商品でも受け取ることができます。

また、行政、企業、市民が協働して地域経済の活性化につながるコミュニティビジネスを応援していきましょう。

○資金を集め、融資する組織をつくりましょう

- ・ NPOは、企業、県民などから資金を集め、融資するための組織をつくりましょう。
- ・ NPO（融資組織）は、事業の有用性や採算性を見極める専門的な知識でコミュニティビジネスを支援しましょう。
- ・ NPO（融資組織）は、融資先の選定を、ハイリスク、ハイリターンではなく地域への貢献度(とその見込み)を目安としましょう。
- ・ NPO（融資組織）は、融資の利息を0として、現物で利子配当を受けることができるようにするなど、一般の金融機関とは異なる方法を使いましょう。(エコマネーの活用も)
- ・ NPO（融資組織）は、資金をできるだけ小口にしてコミュニティの多くの人から公募しましょう。オークション制度なども考えられ、オークションにより得られた余剰を活動資金としましょう。
- ・ NPO（融資組織）は、監査を厳しく行いましょう。
- ・ コミュニティビジネスは、融資を受け、事業を展開し、利益は地域に還元しましょう。
- ・ 県民は、コミュニティビジネスに対する融資を行うため、資金をNPOに貸し付けましょう。(利子配当金ではなく、サービスや製品の場合もありますが、社会的意義について理解しておく必要があります。ボランティア貯金の考え方にも共通します)

○行政、企業、市民が協働して地域経済の活性化に取り組みましょう

- ・ 事業や雇用規模の拡大が見込まれる生活・サービス産業分野でのコミュニティビジネスを創出しましょう。
- ・ 県民は、生活・サービス産業分野の担い手として活動しましょう。
- ・ 県民は、コミュニティビジネスでの体験や、就業を通じて、技術や技能を身につけ、企業に就職したり、起業したりしましょう。